

茅ふきたより

巻頭インタビュー

遠回りしたけど、

茅葺きという天職が身近にあった

山田雅史さん 茅葺き師 45歳

京都市城陽市生まれ 山城萱葺屋根工事代表



▲城陽市寺田中大小の自宅にて

も く じ

04 02 01

巻頭インタビュー 山田雅史さん
会からの報告 第四回茅葺きフォーラム開催
静岡県富士宮市
会からの報告 第四回茅葺きフォーラム見学会
静岡県富士宮市、山梨県富士河口湖町

07 新理事の紹介 中野誠さん、塩澤実さん
08 イベント情報

彦根市男鬼町 茅葺き屋根葺き替えイベント
岩手県一関市 第2回茅葺きの里見学研修会

京都南部の淀川や宇治川を拠点に、実家がヨシを扱っていました。その5代目なんです。はじめは建築畑にありまして、その後に実家の仕事を手伝っていました。が、茅葺き師が高齢化で少なくなっていることから、そんなら屋根葺きしようとして自分で決めました。

今はもう伏見のヨシ原で刈っているのは、山田家一軒だけになりましたが。野焼きも3年ぶりに復活しました。規制で2年間やらなかったら、ヨシ原にツバメが来なくなり、それで市民団体と一緒に守ろうと。

本来は地元で刈った屋根葺き材を使つて、元の土壌にかえすのが自然の循環ですが、最近は量的に不足で、やむなく他所の材料で屋根を葺くことが多いです。うちはヨシもヤマガヤも使いますが、材料の良し悪しは、その土地の環境や育ち方によっても違いますね。

それを葺き方で解決できないものかと、あえて北側には太いヨシを置き、南の表側は細かいヨシとヤマガヤで葺いて、ちよつと実験もしたり。おもしろいことに、ヨシとヤマガヤを混ぜて使うこ

とに、関係しては、いいとか、絶対失敗するとか、いろんな職人の意見もあって正解がないんですよ。だけど職人に求められるのは、一回の仕事で、どのくらい耐久力を持たせられるかで、結局は年月をかけて試すしかないんでしょうね。

葺き方で気を付けているのは、手にしたカヤの目の詰まり、しめた時の柔らかさといった、材料のくいあわせ加減かな。固まりになったカヤの自由度で、均一の力加減を保つようにしているんですが。このごろは自然環境を守ることに心が高まってきていて、大学の研究室などでも、地域をよみがえらせる活動はあちこちありますね。地元のひとと学生がジョイントして、草原の管理などを続けていると、地域の背景が変わってきます。いろんな可能性から、山を変える喜びにまでつながりますね。

カヤを刈ること自体も、付近の環境を守り、生きられる手段だという考え。若者の活躍する場として、本来の価値を発見できる仕掛けを設けることで、あちこちに意識が芽吹いていてもらいたいですね。

(聞き手：坂本善昭)

会からの報告

第四回茅葺きフォーラム開催 静岡県富士宮市にて

「富士山麓茅葺き景観の復活

世界遺産に向けて」

平成25年5月25日(土)

平成25年6月の富士山の世界遺産登録を目指し、盛り上がりつつある富士宮市にて、「富士山麓茅葺き景観の復活 世界遺産に向けて」というテーマのもと、第4回茅葺きフォーラムを開催しました。

茅葺き建造物を支える茅場の保全等について、様々な方からお話を伺いました。

会場は、富士山本宮浅間大社のすぐ近くの富士宮市民文化会館。全国各地から約160名の方が集いました。フォーラム会場のホールだけでなく、他の部屋でも、パネル展示やビデオ上映、富士宮市の物産販売などをしていただき、とても賑わいがある茅葺きフォーラムとなりました。

フォーラムは、富士宮市 須藤秀忠市長と、当協会 安藤邦廣代表理事の開会挨拶に続き、フォーラム前半の講演に入



▲麻生恵さん

りました。最初の講演は、東京農業大学教授の麻生恵さんに「草原の文化的景観」というタイトルで、日本の草原景観や、茅場を含む「二次草原」について、日本で最大規模である阿蘇地域を事例に、その再生についてご講演いただきました。最後には、富士山麓の景観を保全していくための、「文化的景観」の概念による地域づくりの方向性をご提案いただきました。

続いて、神宮司廳 営林部の中川典之さんに「伊勢神宮式年遷宮と萱地管理」というタイトルで、今年行われる第62回式年遷宮と、それを支える萱地の管理についてご講演いただきました。遷宮には、木材や萱など、大量の材料が必要となり



▲中川典之さん

ます。昭和以降、社会情勢の変化により萱の確保が困難とされたため、専用の萱地「川口萱地」が整備されています。第62回式年遷宮のための萱の採取には8年かけ、約二万三千束の萱を準備したそうです。遷宮の際には、内宮・外宮あわせて、のべ五千人の茅葺き職人が作業をするそうです。

前半終了後は、恒例のティータイム。富士宮市の皆さんが準備してくださった地元の美味しいお菓子と、静岡といえばお茶どころ！ということと、とても美味しいお茶をいただきました。他の参加者と情報交換をしたり、パネルやビデオを見るなど、皆さん、思い思いに過ごされていました。

ティータイム終了後、開催地と全国からの活動報告が、当協会 米山淳一理事をコーディネータとし、スタートしました。まずはじめは、開催地からの報告で



▲ティータイム

す。富士宮市教育委員会富士山文化課の渡井一信さんには「富士山世界遺産登録へむけて」というタイトル、朝霧高原活性化委員会の岸野正美さんには「朝霧高原ふる森の茅場とその取り組み」というタイトルで、それぞれご報告いただきました。まさにタイムリーな話題である富士山の世界遺産登録(6月に、富士山は世界遺産に登録されました。富士宮市の皆さん、おめでとうございます)。富士山の裾野の四分の一を占める富士宮市には、かつて広大な茅場が広がっていましたが、茅葺き家屋の減少から衰退し、酪農地帯として土地利用が行われていた朝霧高原の一角にのみ茅場が残りました。

その朝霧高原が、昨年「ふるさと文化財の森」に選定され、現在は、朝霧高原活性化委員会を中心に、茅刈り技能講座の開催などの取組みを行っている、報告がありました。

富士の裾野に広がる御殿場の茅場からは、茅葺きフォーラムでも何度かご発表いただいている、富士勇和産業の長田友和さんに、「御殿場の茅刈り事業について」というタイトルで、お話をさせていただきました。茅葺き文化を支えるために欠かせない茅刈りですが、後継者不足や、御殿場では入会権がないと茅刈りができない、などの課題がありました。そこで、入会権を持たなくても茅刈りができるこ



▲会場の様子

とや、「茅」を中心とした地場産業を発展させ、年間を通して安定した仕事ができる環境作りを目指し、昨年、「富士山御殿場かやの里企業組合」を設立しました。課題解決に向けて、一步一步進んでいる様子がとても伝わってきました。

続いて、おとなり山梨県の富士河口湖町の中村孝一さんから、「西湖いやしの里根場の現状と課題」というタイトルでご報告いただきました。朝霧高原活性化委員会の発表の中でもありましたが、朝霧高原活性化委員会が「茅」に取り組み始めたきっかけは、この西湖いやしの里根場への見学だったそうです。西湖いやしの里根場は、昭和41年の足和田災害で壊滅的被害を受けた根場地区の茅葺き集落を再現した施設です。平成18年にプレオープン、平成22年に正式オープンしました。年間20万人以上の来場者がある人気施設になりましたが、初期に建てた建物は既に7年が経過していて、今後、屋根の葺き替えが必要になってきます。そのためには、地域において、茅の確保や茅葺き職人の育成をしていく必要があります。

続いて、世界遺産としては先輩の五箇山の、越中五箇山菅沼集落保存顕彰会の荒井崇浩さんから、「世界遺産五箇山の合掌の森の取り組み」というタイトルで、顕彰会としての菅沼集落の景観保護や地

域振興の取組みや、株式会社合掌の物語（ものがた）りんとしての、料金の一部が茅場の保全や再生に寄付される、古茅を入れた和紙名刺の販売の取組みなどについて、ご報告いただきました。

最後に、淡河かやぶき屋根保存会くさかんむり代表の相良育弥さんから、「茅葺きをもっと身近に」というタイトルで、2008年にスタートしたくさかんむりの活動について報告していただきました。くさかんむりの活動では、茅葺きの魅力や可能性を、見学会やワークショップを通して、今まで茅葺きに縁がなかった人にも知ってもらえるような「きっかけ」作りをしています。発表の中で出て



▲開催地と全国各地からの活動報告

きた写真では、大人も子どもも笑顔を弾けさせていて、フォーラム会場全体が和やかな雰囲気になり、茅葺きの明るい未来を感じた瞬間でした。

会場との質疑応答も盛り上がり、名残惜しいですが閉会。続きは、夜の情報交換会で、ということになり、富士山YMCAGローバル・エコ・ヴィレッジに会場を移しての情報交換会では、美味しいお料理とお酒も加わり、ますます話が盛り上がりました。

（理事 内海美佳）



▲情報交換会

会からの報告

第四回茅葺きフォーラム見学会

静岡県富士宮市・山梨県富士河口湖町

平成25年5月26日(日)



朝8時30分に出発。まず訪れたのは、「村山浅間神社・村山大日堂」。富士山信仰の重要な史跡として、国指定史跡で世界文化遺産構成資産になっています。修験者の拠点として栄えた興法寺は明治時代の神仏分離を受けて廃され、浅間神社



▲村山浅間神社



▲村山大日堂

と大日堂は分離されました。その大日堂は、富士山の本尊「大日如来」を祀っていた建物で、かつては茅葺き屋根だったそうです。境内には樹齢千年を超える大スギがあり、厳かな空気を感じる場所でした。

次は、鎌倉時代以降に地域の発展に寄与した井出家の「高麗門及び長屋」。ここは将軍源頼朝の巻狩りの宿所があった場所だそうです。2度の焼失に遭いながらも、正面は城郭の門に用いられる「高麗門」（鉄板葺き以前は薄板を重ねたトントン葺き）、両脇の長屋は茅葺きという昔からの建築様式を残していました。



▲旧鱒の家



▲井出家

次は茅葺き民家の「旧鱒の家」。明治時代以降、地方の産業振興に尽力した前田正名男爵が作った「富士朝霧前田一步園」に別荘として移築したもの。現在は使用しておらず、最後の葺き替えは昭和41年とのことで、屋根や建物の老朽化は更に進んでいる印象でした。

次は、ふるさと文化財の森指定の「朝霧高原茅場」。富士山西麓に広がり、標高970〜870m、面積は約152ha。春に野焼きを行い、良質な茅の生産と草原の生態系保全が行われています。大地をみると焦げた茅から、新しい茅がずっと生えていました。



▲朝霧高原茅場



▲地元食材たっぷりのお弁当



▲竹川家の芝棟門

次は「竹川家の芝棟門」。竹川家は、江戸時代頃まで富士金山の採掘を行っていた毛無山を管理しており、山門として作られたそうです。最後に葺いて30年ほど経った芝棟は、堂々とした風格がありました。

昼食はふもつぱらで、この日のために作って頂いた地元食材がたっぷり詰まったお弁当と豚汁ときのこ汁。美味しい食事と茅葺き談義で、さらに交流が深まりました。

最後は、山梨県富士河口湖町の「西湖いやしの里根場」。平成15年頃から整備され、飲食、工芸、展示等が楽しめる茅葺きの里として人気ですが、ここは昔、かぶと造りの茅葺き民家が並ぶ集落でしたが、昭和41年に台風による甚大な被害で集落は消滅してしまったという歴史がありました。

ここで終了。暑い日だったので、美味しいと評判のソフトクリームを片手に帰路につきました。最後まで雲が邪魔をして見えそうで見えなかった富士山。それがまた「ぜひ来よう！」と思わせる刺激にもなりました。今回も勉強になりました。ありがとうございました。

(理事 上野美帆)



▲西湖いやしの里根場

■大会プログラム 2013年5月25日(土)

第4回茅葺きフォーラム

「富士山麓茅葺き景観の復活 世界遺産に向けて」

主催：富士宮市、富士宮市教育委員会、日本茅葺き文化協会

総合司会 内海美佳（日本茅葺き文化協会理事）

開会あいさつ

富士宮市長 須藤秀忠氏

日本茅葺き文化協会代表理事 安藤邦廣

講演

草原の文化的景観（東京農業大学 麻生恵教授）

伊勢神宮式年遷宮と萱地管理（神宮司廳 宮林部 中川典之氏）

ティータイム 情報交換

開催地と全国からの活動報告

コーディネータ：米山淳一（地域遺産プロデューサー・日本茅葺き文化協会理事）

富士山世界遺産登録へむけて（富士宮市教育委員会富士山文化課 渡井一信氏）

朝霧高原ふる森の茅場とその取り組み（朝霧高原活性化委員会 岸野正美氏）

御殿場の茅刈り事業について（富士勇和産業 長田友和氏）

西湖いやしの里根場の現状と課題（富士河口湖町 中村孝一氏）

世界遺産五箇山の合掌の森の取り組み（越中五箇山菅沼集落保存顕彰会 荒井崇浩氏）

茅葺きをもっと身近に（淡河かやぶき屋根保存会くさかんむり 相良育弥氏）

閉会あいさつ 富士宮市教育長 池谷真徳氏

情報交換会

■見学会 2013年5月26日(日)

<見学Aコース>

村山浅間神社、村山大日堂～井出家高麗門および長屋～旧鱒の家

～朝霧高原茅場～竹川家の芝棟門

<見学Bコース>

村山浅間神社、村山大日堂～井出家高麗門および長屋～旧鱒の家

～朝霧高原茅場～竹川家の芝棟門～いやしの里根場



▲西湖いやしの里根場

このたび、西湖いやしの里根場から招待券を発行していただきましたので、皆様ぜひお出かけ下さい。

西湖いやしの里根場
招待券
有効期限：平成26年7月31日
この券を持参の方は
1枚で5名まで
入場無料



▲朝霧高原茅場



▲竹川家の芝棟門の前にて

新理事の紹介

中野 誠

美山茅葺株式会社 代表



「将来は父と一緒に左官屋の後を継ぎたい。」小学校に入るとき書いた将来の夢です。当時6〜7人の職人さんが毎日家の横の倉庫に集まっていた、よく遊んだことを覚えています。ところが時代は大きく変わってきました。風呂は、ユニットバスに変わり、おくどさんは、システムキッチンに変わり、壁はクロスにと、どんどん逆風になり、小学4年の時、中野左官店は倒産してしまいました。



そんなこともあり、高校を出て地元の農協に就職しました。根っから職人の父の血を引き継いでいるせいか、どうも農協職員という道で一生、生きていきたいとは思えませんでした。

何がやりたいのか？自分探しの旅がはじまりました。偶然にもイギリスに行くことがあり、そこで茅葺に出会いました。えっ、こんなところにもあるのか？とハンマーで頭を叩かれた様な衝撃を受けました。私の住んでいるところも茅葺だらけじゃないか？これをやらねば何をやる？はじめて自分の人生のスイッチが入りました。

帰国後、当時美山で3人の職人様に頭を下げ、弟子入りを認めてもらいました。しかし大正8年生まれの祖母は大反対。息子の倒産も見てきて、孫もか？と思ったのでしょ。それと昔の人は茅葺職人をいやしい職業と思っていたからです。（屋根屋殺すに刃物はいらぬ。雨の3日も降ればいい）そう言いました。雨ふりはできない、（雪降りも）、怪我したら出来ない、保証もない、退職金もない。うちが死んでからやってくれ、頼むで目を覚ませ。と泣いて反対しました。しかし、本当にやりたいことに出会った時、どんな言葉も耳に入らないものです。そして今、21年がたちます。すべての経験を活かし次の世代に引き継ぐため組織にしま

した。そして現在12名の若手茅葺職人がいます。本当にうれしかぎりです。職人としての仕事と、引き継ぐための仕事。茅葺きを心から愛する一人としてできる限りのことを、やっていきたいです。宜しくお願いいたします。

新理事の紹介

塩澤 実

茅葺屋 代表



このたび理事をお引き受けすることになりました塩澤実です。茅葺き職人として修行を始める機会に恵まれてから18年、日々屋根の上や軒下で、或いは茅場で、手から耳から聴かされる先達の知恵の数々に、茅葺きという文化が単なる郷愁の対象ではなく、現代社会に必要とされているという確信を深めて来しました。毎年春になれば芽を出し、秋には収



穫できる草で快適な住まいの屋根を葺き、古くなったそれは速やかに畑の土に還る。再生産が容易で廃棄物を出さない茅葺きは、完成した持続可能な建築の姿を示してくれています。茅葺き屋根を葺くために草を刈ることは、たくさんの命を育む草原を守る事でもあり、茅葺き屋根そのものも、小さな生き物たちの棲み処でもあります。茅葺き屋根の葺き替えに手間がかかるという事は、茅葺きのためにたくさんの方が集う場が設けられるということでもあります。歴史的建造物を取り巻く厳しい現実はあるものの、各地での取組みの様子を伺っていても、茅葺きに向けられる想いは滅びゆくものへの哀惜ではなく、豊かな伝統文化を如何に楽しむかに変わりつつある事を感じます。

世代を経て磨かれてきた茅葺き屋根とともにある暮らしは、肩の力を抜いてこの島の豊かな自然に寄り添う生き方です。人と人との繋がりが、人の暮らしと自然の調和が求められる今だからこそ、茅葺きに気軽に触れられる機会を増やして行きたいものです。茅葺きという営みを通じて、人と自然とを循環する環と、今と昔を結び人と人との間に広がる輪を、繋いで行くお手伝いが出来ればと思っています。どうぞ、よろしく願っています。

彦根市男鬼町 「茅葺き屋根 葺き替えイベント」

男鬼には、古くからの茅葺き民家が1棟、良好な状態で残っています。
今年も葺き替えを行います。あなたも参加して、貴重な体験をして
みませんか？

日 時：2013年7月13日（土）・14日（日）

場 所：彦根市男鬼町

参加費：一日あたり600円（保険料）

※ 弁当が必要な方は別途500円

申込み：滋賀県立大学人間文化学科 濱崎・石川研究室

電 話 0749-28-8611

メール hama_ishi_ken@yahoo.co.jp



岩手県一関市 「第2回茅葺きの里現地研修会」

日 時：2013年8月24日（土）・25日（日）

集合・解散場所：JR一ノ関駅

宿泊先：ホテル三嶋の湯（岩手県一関市千厩町千厩字駒ノ沢234）

参加者：日本茅葺き文化協会の会員・関係者

定 員：30名（先着順・10名以上で実施）

参加費：資料・講師代／3,000円、視察（バス）代／4,000円

※ 集合・解散場所（一ノ関駅）までの交通費と

宿以外の食事代等は各自でご負担下さい。

宿泊費：8,000円程度（1泊2食付き・税サービス含）

※ 宿泊費のお支払いは各自でお願いします。

申込み：日本茅葺き文化協会（FAXまたはメールにてお申し込み下さい。）

申込締切：2013年8月9日（金）



【8月24日（土）】

- 12:45 JR一ノ関駅集合・研修行程の説明
- 13:00 バス移動
- 13:30 現地研修①：県指定文化財村上家住宅、
レクチャー「岩手の茅葺き」
千厩、藤沢地区の茅葺き民家ほか
- 18:00 宿泊場所へ到着
（入浴・夕飯）
- 20:00 懇親会

【8月25日（日）】

- 7:00 朝食
- 8:30 宿泊場所を出発（バス乗車）
- 9:00 現地研修②：千厩、藤沢地区の茅葺き
- 12:00～13:00 昼食（一関市内）
- 13:00 現地研修③ 正法寺、中尊寺
- 16:00 JR一ノ関駅到着・閉会

（※ スケジュールについては目安です。変更の可能性がありますのでご了承下さい。）

◎みなさんの情報をお寄せ下さい！
茅葺きについてさまざまな情報とご意見・ご要望をお待ちしております。
茅刈り、葺き替え情報大歓迎。事務局宛までお寄せ下さい。

茅ふきたより 第11号

2013年6月30日発行（非売品）

発行：一般社団法人日本茅葺き文化協会

編集：茅ふきたより編集委員会

一般社団法人日本茅葺き文化協会

〒300-4231 茨城県つくば市北条184

TEL/FAX 029・867・5829

E-mail info@kayabun.or.jp

URL <http://www.kayabun.or.jp>

（編集後記）
風でときどきふわっといい匂いがした。
ねーねーなんかいい匂いせーへん？こ
れなんの匂いかなあと聞くとびみん
が地面をにおう。何人めかで、うん青
草の匂いしますね。そうそれだ！
野焼きした茅場に勢よく芽吹く青い
草たち。なんともいえず清々しい気持
ちになった。朝霧高原茅場にて。
2日間を終えて
またはやくみんなに会いたい。（弥）